

れんさい 監査の四季

第26回
鯖江市代表監査委員
川 中 清 司

これからの眼鏡産地(4) 鯖江モデルの実現を

眼鏡産業ビジョンは2010年の鯖江産地の姿をこう描いています。

「中国が市場として巨大化した今、鯖江は、ミラノを抜く世界の眼鏡情報が集積地として輝いている」と。

また、来年に迫った「眼鏡生誕百周年」には、「目と眼鏡の国際フォーラム」が開かれ、新しい鯖江をお披露目する最初の晴れ舞台となり、鯖江マーケティングオフィスが活躍する一と。

このオフィスは、眼鏡業者の経営支援活動をする機構で、「SAVA Eコレクション」をはじめ、メガネ



産官学連携で眼鏡の新品・デザイン開発・作品展—南青山291

に関する調査と情報の提供、公的機関の受託業務や、異なる業種への技術移転、教育研修を実施し、加工技術などあらゆる経営サービスを提供し、SAVAEブランドを管理し推進する機能を果たします。

これらの構想は鯖江モデルの積極的な推進によって可能となります。

SAVAEモデルのVは価値、EはENDURED(エンデュアード)耐えて持続するという意味で、自身は継続的な眼鏡産地の活性設計です。

鯖江産地を活性化するために、次の戦略と役割分担が必要です。

まず**企業のものづくり**に旺盛な企業間競争と創造性を発揮して、お互いが技術や製品の水準向上を図る。

人づくり地域づくりにデザイン、技術などの人づくり。地域の仕組みづくり。インフラ(基礎的な施設・設備など)の整備を促進する。

世界に輝くさばえ眼鏡産地を築くために、**行政や業界**はこれらの政策づくりを急ぎ、集中的に支援し助成することが必要です。

猛スピードで戦略を具体化しリードする実行グループと、組織立上げを強く訴えています。